

第2回審議会における委員からの意見等

1 全般

- ・急いで進めなければならないこととゆっくり進めていくことを分けて考えるべき。
- ・具体策の実現までのプロセスや期限の明確化
- ・具体策の明確化
- ・同規模地域の成功例の即実施
- ・死ぬまで安心して暮らして行けるまち音更

2 女性の参画の拡大

- ・女性の各分野の割合（比率）の法制化
- ・集会や会議などで男性が多い中で意見を述べるのに勇気がいるし、発言すると視線が気になる。
- ・様々な分野で活躍している女性をサポート支援する。
- ・独身者の地位向上
- ・女性上位の外国はあるのか。

3 仕事と生活の調和

- ・男女ともに年配者の理解
- ・家族間の問題かもしれないが、女性（嫁や妻）が外へ出ようとする、あまり良い言葉を言われないという事もまだ多いのでは。
- ・弊害が出たときの責任者の覚悟

4 職場における男女平等

- ・介護職などはかなり重労働の職場であり、妊娠・子育てとなると色々な制約が出てくる。限られた人数の中でフォローしているが、周りへの負担も重く、非常に厳しい現実がある。
- ・制度上では男性も育児休暇などを取れるようになっているが、実際に取っている男性は少ない。職場の理解が必要である。役場など行政機関が先頭を切らないとなかなか一般企業まで浸透しないのではないのか。
- ・職場で女性の能力や考え方を尊重すること。
- ・企業に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかける。

5 就業機会の促進

- ・女性の再就職は困難なのが現実

6 子育て支援

- ・働きたいと思っている女性はたくさんいると思う。幼稚園や保育所では割と遅くまで子どもを預かってくれるが、学童保育所は早い。色々な職種があり勤務時間も様々であることから整備していく必要があると思う。
- ・目標を達成するための基本的な方針として子育て支援・介護支援を入れたら良い。
- ・少子高齢化社会の中で、子育てや介護は大きなテーマの一つとして入るのではないのか。
- ・町や企業に求めるだけでなく、子どもを産む・育てる・働くという意識を自分自身がしっかりと持つことが大切
- ・延長保育の負担額を軽減できないか。
- ・今でも女性が働く続けることは簡単なことではない。元気な高齢者などを活用し、子育て支援ができないか。
- ・共働きした時の育児など、仕事場での支援
- ・親子がいつでも行ける場所がない。
- ・保育所は町が直接運営し正職員が保育すること。

- ・3歳未満児も多く入所できるように。
- ・子育てに高齢者の活用は反対 高齢者の力は他の分野で。
- ・資格をもつ保育士を正規で採用する。
- ・働き続けるために学童保育所を沢山つくる、6年生まで、指導員を増やす。
- ・働きたくても子供を預ける場所がない。
- ・育児経験のある主婦を支援員にすると良いのでは。
- ・小学校の学童保育ももう少し長く、定員も多く増やすと良いのでは。

7 DV関係

- ・DV対策に関しては、現在困っている人がおり、早急に進めるべき。
- ・町のDV相談窓口の設置
- ・DV対策については、十勝は進んでいる地域だが、市町村によって差がある。相談する場所がわからない人が多いことは問題である。
- ・音更町にはもっと相談員が必要。女性相談員がいたらよい。
- ・DVについては、定期的なものでなく、随時対応できる相談窓口が必要である。
- ・デートDVの教育は、高校生からでは遅い。できるだけ早い段階、適切な段階で行うべき。
- ・女性の経済的な自立支援
- ・DV被害者の受け入れ体制がよく分からない人が多いのではないか？

8 学校教育

- ・教育に関しては、しっかり時間をかけて進めていくべき。
- ・小さい頃からの意識改革
- ・ワーク・ライフ・バランスの学習を若年時にする必要がある。
- ・学校教育の中で性について、妊娠・出産とはどういうことかを教えていく。

9 家庭生活

- ・女性の負担が多い家庭で子どもが育つとそういうものだという意識が着いてしまう。家庭での意識も大切である。
- ・家庭の中からの男女共同（平等）が大切
- ・家庭教育も大切

10 生涯学習

- ・生涯学習の充実